

## 子どもの命 守るには

矢巾町で今月、中学2年の男子生徒がいじめを苦に自殺したとみられる事案が起きた。子どもの頼りになる相談相手であるべき保護者は、子どもの命を守るためにどうよつたことに気を配って子どもと接すればよいか。暴力などから子どもを守る活動を展開するCAP岩手の高橋寿美子代表(58)に話を聞いた。

日本心理学会認定心  
理士である高橋代表  
は、今回の問題について率直に「悔しい」と受け止める。同団体は長年、子どもがいじめや虐待などの暴力から心と身体を守る方法を心と身体を守る方法を  
学ぶプログラムの実践、普及活動を行ってい  
るが、「活用されなかつたのが残念」と話  
のは、いじめに対する思い込みや偏見を捨てて現実を知り、いじめのメカニズムや子ども  
の心理状態などの知識を持つこと。「『いじめられる方も悪い』い  
じめられる子は弱い子」などといふ価値観  
大人に必要とされる大人に必要とされる

## CAP岩手・高橋代表に聞く

できない。いじめられた子があえて明るく振る舞つような心理も知つていなければいけない」と話す。

A color photograph of a woman with short, dark hair and glasses, smiling and holding up a small book. The book has a white cover with green text that reads 'CAP' at the top, followed by 'COTTON' and 'ALGODON'. Below the title are several colorful, stylized drawings of leaves or flowers. The woman is wearing a white cardigan over a black top and a gold bracelet on her left wrist.

子どものいじめ問題やC A Pの理念について語る高橋寿美子さん

互い尊重しながら話しあえる関係である」と子どもたちが安心するといふ。CAPが伝えている考え方には「NO」「GOTO」「TEL」がある。暴力など嫌なことに対する「嫌」と言うこと、「逃げる」「相談する」ことで身を守る方法だ。

が虐待を受けていたりツッとするにはどうすれば不安を感じているなどばいいか。大前提となるでストレスを抱えているのは日頃から話を聞くことが多い、加害者へ習慣。その上で、子どもを聞くことが、その先のいじめ防止になく「子どもの話をちゃんとつながる。」のまま聞いてほしい」という。